

平成31年3月27日に第9回,令和元年7月10日に第10回の専門委員会が開催され,九州電力などからの報告を受けて,委員からさまざまな意見や助言がありました。

## 第9回専門委員会

### 1 川内原子力発電所の安全性の確認について

#### ■ 蒸気発生器取替後の検査について(九州電力)

昨年の定期検査で取り替えた蒸気発生器について,検査方法等の説明がありました。

- ① 本体の耐圧漏えい検査及び総合負荷性能検査については,定期検査ごとに行っている。
- ② 伝熱管については,2回の定期検査で全数の検査を行っている。
- ③ 伝熱管に異常の兆候が確認された場合は,②にかかわらず,当該定期検査中に全ての伝熱管を検査する。

#### ■ 火山灰シミュレーションについて(九州電力)

第7回専門委員会で説明があった火山灰シミュレーションについて,シミュレーションの計算モデルや風向・風速等の気象条件等について説明がありました。

**意見** 本シミュレーションのポイントは,原子力発電所の非常用発電機の吸気フィルタにおいて,火山灰による目詰まりが発生しないよう,桜島大正噴火級の噴火による降灰で,川内原発敷地において,どのくらいの気中濃度となるのか検証するために実施していることから,噴火継続時間を反映したシミュレーションを実施してほしい。など

### 2 原子力防災対策について

#### ■ 避難時間シミュレーションについて(鹿児島県)

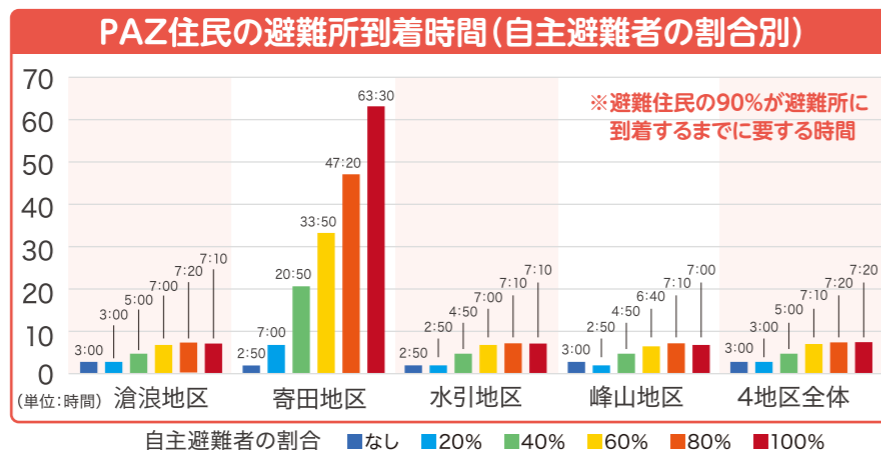
平成30年度に実施した避難時間シミュレーションについて,結果報告を行いました。

##### 避難時間シミュレーション

##### 条件

自主避難者は,シビアなケースを想定し,以下のとおり設定。  
 ・PAZ住民が避難を開始する前に自主避難者が避難を開始する。  
 ・自主避難者全員が,避難計画で定められた避難経路を利用。

避難指示を受けていないUPZ住民の避難(自主避難)が,PAZ住民の避難に及ぼす影響を検証しました。その結果,複数の交差点で混雑が発生し,特に薩摩川内市寄田地区の住民避難に影響を及ぼすことが分かりました。



## 第10回専門委員会

### 1 川内原子力発電所の安全性の確認について

#### ■ 特定重大事故等対処施設の設置に関する状況について(九州電力)

特定重大事故等対処施設の設置については,設置期限内の完成が間に合わなくなりつつあることから,これまでも工期短縮に向けて最大限の努力を行ってきたが,更に早期に完成できないか,深掘りして精査を行っているとの説明がありました。



#### ■ その他(地震対策について)

**意見** 原子力規制委員会の検討チームにおいて,原子力発電所の耐震対策の前提となる基準地震動の計算方法を見直す案が決定されたが,それを踏まえた川内原発における評価について,今後,当委員会で説明してほしい。

### 2 原子力防災対策について

#### ■ 安定ヨウ素剤の事前配布について(鹿児島県)

安定ヨウ素剤の事前配布対象者に係る国の原子力災害対策指針等の改正内容及び本県においてはこれまでの対応を継続すること等を説明しました。

**意見** 安定ヨウ素剤については,有効期限で交換することも考慮し,十分な量を確保してほしい。など

#### ■ 避難時間シミュレーション結果について(鹿児島県)

平成30年度に実施した避難時間シミュレーションのうち,UPZ住民の指示に基づかない避難が及ぼす影響及び自然災害による影響について説明しました。

**意見** UPZ住民の指示に基づかない避難により,住民の避難時間は長くなることから,避難計画に定めた避難ができるよう,今回の調査結果の周知に努めてほしい。など

**意見** 自然災害と原子力災害の複合災害の場合,最終的に住民の安否をどう確認するのか,今後の課題として取り組んでいただきたい。など

